

日本貨物航空(株)のボーイング式 747-400F 型機の  
耐空性改善通報(TCD)に基づく点検期限の超過について(概要)

1. 21 日夜、日本貨物航空(株)が運航しているボーイング式 747-400F 型機 8 機のうち 1 機が、耐空性改善通報(TCD-6891-2006)にて要求されている点検の期限を超えて、運航していたことが判明した旨、同社より報告があった。
2. 当該点検は、水平安定板(水平尾翼)の傾きを制御する駆動機構に対して、初回及び繰り返し点検を行うもので、2006 年 7 月に TCD-6891-2006 として発行。
3. 同社では、今般、整備プログラムの見直し作業を行っていたところ、同 TCD に基づく当該駆動機構の「ガタ」に関する繰り返し点検(21,000 飛行時間毎)の設定はなされていたが、初回点検(15,000 飛行時間以内)の設定がなされていないことに気づき、結果として1機について、15,000 飛行時間以内の初回点検期限を、319 時間 1 分超過していたことが判明したものの。
4. 同社では、超過が判明した時点で、直ちにロサンゼルスにて当該機の運航を停止した上で、22 日(日本時間)に点検を実施し、安全上の問題がないことを確認。

